

## 平成30年度5月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成30年4月25日（水）午前11時00分～11時40分  
場所 市役所2階 第3委員会室  
出席 市政記者クラブ9社

### 会見内容

#### 1. はじめに（1項目）

##### 1. 市立釧路総合病院新棟建設工事の着工延期について

- 話題に入る前に、先日、4月23日、市立病院の担当者より説明させていただきました、市立釧路総合病院の新棟建設工事の着工延期につきまして、お話しさせていただきます。
- 市立釧路総合病院新棟建設工事につきましては、当初、平成29年度中に実施設計を完了し、平成30年9月から工事の着工の予定で進めておりました。しかし、実施設計委託業者から履行期限までに成果品が納品されておらず、今年度から予定していた着工を延期せざるを得ない事態となっております。
- 今後につきましては、現在、病院内及び関係部局にて検討を行っており、市議会には6月定例市議会までには、一定の方向性を示させていただくとお話しをさせていただきます。
- 市といたしましては、市立釧路総合病院は釧路根室圏の地方センター病院として、この地域の安全・安心かつ高度な医療を継続して提供できるよう、しっかりと役割を果たしていくことを念頭に進めてまいりたいと考えております。

#### 2. 話題提供（2項目）

##### 1. 釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz 澄川センター長の着任について

- 市や釧路商工会議所など10団体で構成する釧路市ビジネスサポート協議会では、富士市産業支援センターf-Biz（エフビズ）をモデルに、事業者の売上増に重点をおいた支援を行う、釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz（ケービズ）の8月の開所に向けて、準備を進めております。
- 2月には、センター事業の中核を担うセンター長が、全国からの応募者総数110人の中から澄川誠治（すみがわ・せいじ）氏が選ばれたところです。5月1日（火）に、澄川氏が正式にセンター長として着任され、この日、雇用元となる釧路市ビジネスサポート協議会より採用辞令を受けたのち、午後4時30分より市役所第一委員会室において、私も同席のもと記者会見を行い、今後の抱負等をお話いただく予定となっております。
- なお、澄川氏の今後の予定等につきましては、5月1日の記者会見の場で、ご報告申し上げますので、当日の取材方、よろしくお願ひします。

## 2. クルーズ客船おもてなしソングの制作について

- クルーズ客船にて釧路を訪れる観光客の皆さまを、官民一体となっておもてなしをしようという事で発足した「釧路港おもてなし倶楽部」が、今年で発足10周年を迎えることを記念して、「お出迎え」と「お見送り」の2曲のおもてなしソングを釧路市観光大使のヒートボイスのお2人に制作していただきました。
- この曲につきましては、今後入港・出航のおもてなしの際に会場で流してまいります。お出迎えソングの曲名は「Welcome (ウェルカム) to (トウ) Kushiro (クシロ)」で、おもてなし倶楽部の皆さんが考えたキーワードを織り込み、オールディーズ風な曲で表現しています。
- お見送りソングの曲名は「See (シー) You (ユウ) again (アゲイン)」で、お見送りの際に、市民がみんなで手を振ったり踊ったりしやすいよう、アップテンポな曲になっています。
- この2曲は、今年度の初入港となる4月28日(土)フォーレンダムの出港前の午後4時から、耐震岸壁でお披露目を兼ねたヒートボイスのミニライブの中で市民の皆さんに披露いたしますので、ぜひ皆さまにお集まりいただき、お見送りをしていただければと思います。
- 今年度のクルーズ客船は、外国船籍7隻を含む、12隻20回の入港を予定しており、そのうち初入港の船が4隻予定されています。
- また、10月14日(日)には、一度に2隻の船が入港する予定となっており、その風景は大変見応えがあるものと思います。
- 今年度も「釧路港おもてなし倶楽部」や「釧路国際交流の会」「釧路観光ガイドの会」、また、高校生の皆さまなどとの連携に加え、このおもてなしソングを活用し、盛り上げていけるよう取り組んでいきたいと考えております。

## 3. その他(2項目)

### 1. 道の駅 阿寒丹頂の里のトイレの24時間対応について

- 現在、24時間トイレは赤いベレー横にありますけれども、24時間トイレのある道の駅阿寒丹頂の里駐車場が、パーキングキャンプ利用者で満車になることが多くあったことから、混雑を解消するため、旧道の駅側(国道を挟んで向かい側)のトイレを4月28日から9月末まで24時間対応に変更いたします。
- 阿寒丹頂の里は、道東道阿寒インターチェンジが開通してから、非常に多くの方にご利用いただいております。利便性をしっかり確保していこうということです。
- また、4月28日に、阿寒丹頂の里にある、自然休養村キャンプ場・パークゴルフ場・ドックランコーナー等が今シーズンオープンし、『春のグリルパーティー』と題したオープニングイベントを4月28～30日及び5月3～6日のゴールデンウィーク期間中に開催いたします。

- 開催期間中は、釧路市の特産品である阿寒ポークや阿寒モルト牛の炭火焼きや、花咲ガニなどの魚介類の格安販売を実施いたしますので、多くの市民や観光客の皆さまにお越しいただきたいと思っております。

## 2. 前総合政策部長浅見仁氏の釧路市政策アドバイザー就任について

- 平成26年度から27年度の2カ年、総務省から釧路市へ出向いただき、当時は総合政策部長としてお力添えをいただいた浅見仁（あさみ・ひとし）氏に、釧路市で2人目となる釧路市政策アドバイザーにご就任いただきました。
- 浅見氏が総合政策部長の際には、釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定や、民間とのさまざまな連携協定など、各分野に総合政策部として携わっていただき、釧路市の政策に深く精通されております。国に戻られてからは、復興庁へ出向され現在勤務されております。
- 浅見氏は、国に戻られてからも何度か釧路市に来ていただいたりもしており、今後もゆかりのある釧路市と係わりを持っていきたいとお話があったことから、釧路市政策アドバイザーとして、またお力添えをいただくということで就任いただいたものです。

## 4. 質疑要旨

(質問)

- ・ 1点目は、市立病院着工遅延についてです。あらためて委託業者の遅延について、その要因について市長の見解をお聞かせください。2点目は、阿寒丹頂の里のトイレを24時間対応にするということで、従来はどのような時間帯となっていたのでしょうか。

(市長)

- ・ まず、市立病院についてです。病院と委託業者では、今までもいろいろと打ち合わせ等を行ってきており、メールでのやり取りや、直接電話とかで話をしてきたところです。そういった状況の中では、期日に間に合うというお話しをいただいていたのが、最終的には期日が守られなかったというところです。

私どもとしては、しっかりと、その時その時の中で、どのような形で行っていくかという話をしていますので、私の方も、逆に、要因をお聞きしたいぐらいです。なぜ、こんな形になったのかと思います。

私どもは、発注した責任もあって、あわせて、契約という法的なものもある中で、やり取りを何度もしてきた中でありますので、その結果がこういった形になったということは、非常に、個人的には憤慨しています。

ただ、市の業務でありますことから、着工が遅れるという結果責任というものは、私にあると考えています。

(質問)

- ・ 履行遅延の要因が委託業者側の個別の事情にあるとすれば、何らかの対応が取れるのですが、資材コストとか、他の委託業者に任せた場合でも、同様の理由が発生することもあると思う。今、お聞きすると、要因については、まだ、これからだと言うことでしょうか。

(市長)

- ・そこはきちんと確認しながら、進めていきたいと思っております。ただ、例えばコストが上がっていくことが懸念としてあるのであれば、こういう形だということのをいろいろとお話しいただく中で、どうしていくかということであり、つまり、それが発注の責任であり、受けた側の責任であって、常にそういったやり取りを進めてきたものと認識しているところです。そういったことから、その要因が何なのかということが、まだ分からないというのが実態であります。

(阿寒町行政センター長)

- ・現状の旧道の駅のトイレの開設時間は午前9時から午後5時までで、それを24時間化にするものです。

(質問)

- ・先日、市立病院側の説明をお聞きしました。委託業者側の言い分と若干、事実関係が食い違っていることがあります。実施設計の定義にもよるのですが、ものとして図面・積算もある。ただ、積算したところ、予算内に収まらないということなので、どうしましょうかと市に投げているということです。どうしましょうかとなると、この委託業者を使うというのであればと言う前提ですが、今の予算内に収まらないので、委託業者が出した予算に合わせるのか、それともどうしても予算内に収めてくれと言うのか、市としての対応は2つあると思う。委託業者側は予算内に収めるための方策もいくつか提案をしており、それに対して何の指示もないということで、話は止まっていますとのこと。事実関係はどうなのでしょう。

(市長)

- ・事実関係が一番重要なことだと思っております。先ほど、私どもが発注者としての責任があると言いました。契約した側の方は、その契約という形の責任があると考えます。そして公共の仕事であるので、当然、成果品の設計ができあがったから終わりというのではなく、それが、本当に正しいものなのかどうなのかということ、確認しなければいけません。これが必要なことだと思っております。確認するためには、設計図やさまざまな書類がどうなっているのかを全て確認し、その中で成果品があるものと考えています。そこを確認できるものができてきたのか、できていないのか、ここも大きなポイントになってくると考えています。私どもは、現在、市立病院が確認するだけの資料が出されていないと、故に、成果品という位置づけの物はもらっていないという認識でおります。

(質問)

- ・予算内に収まらなかったことは、資材価格が高騰したことだと思いますが。

(市長)

- ・そういった状況の中で、例えば、機能を落とさないで建物内部のグレードを変えて安価にするとか、こういったやり取りとかはやっています。ただ、最終的に成果品を受け取るには、行政体の中で確認していくものであり、公共の仕事は全部そうやっています。図面や設計を出しても、本当にその設計でできるのか、それに伴ってどれをどれだけの数量を使ってやっていくのか、それでできるのか、そういったことを確認してからやっていくもので、その確認作業ができないという状況です。

(質問)

- ・両者が今回、こう着しているように見えるのは、予算の問題ですね。

(市長)

- ・もちろんスタートの中で予算というものがありながら、大きさが若干増えてい

くというのもありました。その中で、トータルの予算の中で遣り繰りをするというか、例えば、既存棟の改修等については、これぐらいのレベルにしながら使っていこうとか、いろいろなことを話しながら行ってきたところでもあります。

私どもがしっかり確認して初めて成果品になるものだと思っています。そのためには、確認するためのものができて、それを確認し、間違いがないということで、初めて成果品になるものだと認識しており、そういった意味で成果品が納められていないということです。

(質問)

- ・ 設計図面そのものはあるのだけれども、市に納品するときに、予算に収まった成品でないの、成果品ではないという認識なのですか。

(市長)

- ・ 違います。そうではありません。

(市立釧路総合病院新棟建設推進室長)

- ・ 工期終了時点では委託業者が言う図面であって、こちらが中身を精査する図面は出来ていないということと、そこに至るまで、こちらで確認作業をするための、価格や図面の内容について出してくれということは何回も言いながらも、工期内に出されなかったということで、現在に至っています。

(市長)

- ・ 私どもは頼んで発注したもので、任せて出来たのでこれでやりましょうという話ではなく、それが本当に大丈夫なものなのかどうなのかということ、必ず確認しながら進めていくことになっています。その確認作業ができない状況というのは、成果品というものになってこないものだろうという意味です。

(質問)

- ・ 実施設計という言葉の定義が、双方で若干齟齬があるという印象を受けます。

(市長)

- ・ 私ども、そういう認識の中でお話しさせていただいています。3月23日の期限までそれは出来てこない。もちろん、その日に、できないということのお話しは来ておりますけれども、それを認めたわけでもございませんし、この辺をきちんと整理していきたいと考えています。

(質問)

- ・ 人件費や資材価格の高騰が原因であれば、妥当な価格に基づいて出してくているとすると、委託業者を変えても同じ結果になってしまうのでは。

(市長)

- ・ もちろん予算というものはあります。しかしながら、市立病院は地方センター病院として、地域の中の高度医療をしっかり担っていくという、極めて重要な施設だと考えています。ということは、機能がしっかり確保されない困る施設です。予算の制約があってその機能が削がれるのであれば、しっかりと説明していきながら、予算を確保するというのが重要なことだと思っています。予算がこれだけだから、それ以外のものは成果品にならないということは、私にしてみれば、丸投げみたいな話になり、そういうことにはならないと思っています。まず、目的はしっかりした機能を持つところから始まっています。

(質問)

- ・ 鉄骨造で設計されており、鉄骨の価格が2年前の価格と相当乖離があります。

(市長)

- ・ 私どもも、きちんとしたことを確認して、予算を超えるということであれば、それに伴った対応を考えなければならない。それを、この予算しかないからという形にした場合に、本来の病院の目的の機能が失われてしまいますので、その部分の事実関係をしっかり確認していくということです。私どもにしてみたら、今までの報告の中では、そういったところを確認する部分が提出されていないという認識を持っているということです。予算の中でできないからダメだという話ではないのです。実際にこれまでも物価スライドや設計変更とかさまざまな仕組みで対応していますから。

(質問)

- ・ 市長に、現在この状態になっているということは、3月23日の納期時点で報告があったのか、その前に耳に入っている状態だったのでしょうか。

(市長)

- ・ どうするかという形で、4月18日です。

(質問)

- ・ 基本設計と実施設計について、平成27年9月から始まっていて、平成29年3月に実施設計が終わるという予定だったものが、1年延びて今年度の3月までという形になった。市は進捗の状況だとかをどのように把握していて、課題はあったのかとか、現状で認識されていることがありますか。

(市立釧路総合病院新棟建設推進室長)

- ・ 基本設計時点においては、建物の面積や工事費などはお互いに確認した上で、合意を得て進めています。その後、実施設計に入ってから、ものの積み上げ作業に入るわけですが、その辺のやり取りについて、今、経過を踏まえながら、事実確認をしているところで、委託業者の考え方というところにつきましても、きちんとやりとりが残っていますので、そういうところを突き合わせて、事実をきちんと整理していくというところです。

(質問)

- ・ 最終的には新棟建設ということで考えていらっしゃるんですけども、新棟建設の撤回を含め、病院機能の強化のあり方を見直していくなど、現時点での考えはありますか。

(市長)

- ・ 市立病院の機能をしっかり持つていくと言うことは必要なことであります。これは変えていくということはありません。地方センター病院として、また、この地域における市立病院としての位置付け、これはしっかり確保していくということが最優先であると考えています。そのためには新棟建設は必要なことと認識しており、しっかり進めていこうと考えています。今回の設計についてどうするかということは、さまざまな選択肢があるものだと思いますけど、契約上のことはもちろん重要なことであって、ルールに基づいてしっかりやっていくということは、双方が権利として有していることだと思っております。ただ、いろいろな意味で、信頼関係というものが極めて重要なことだと考えております。大きな仕事を一緒になって進めていくためには、信頼は欠くことのできないものだと思います。それは、どこにも明記されているものではございません。でもそういったものも必要なことだろうと考えています。

(質問)

- ・ 現状として、信頼関係は崩れ、不信感はあるということでしょうか。

(市長)

- ・ 私としては、そうです。

(質問)

- ・ 着工が延期になると、今年度の公共工事の総量が減りますが、公共工事を別の事業で確保するなどの考えはありますか。

(市長)

- ・ 市立病院の新棟建設は、各部署が協力しながら進めてきたものです。市の財政のことも含めながら、どのような形で行っていこうとか、いろいろと調整しながら進めてきたものであります。そういった中、今朝の庁議で、この工事の延期における影響を、各部署から出していきながら、進めていこうとしたところです。例えば、公共交通網のバス再編の取り組みなど、さまざまなことがあることから、影響が有ることを早急に全部出して、それらの中でどのような形をとっていくのかということを進めていくため、指示したところです。公共事業の総量というものがどうなるのかということにつきまして、今年度の分というのは予算的にはそんなに多くないものの、次年度以降も含めた期間の総額というのがある中で、ほかにもトータル的な事業はたくさん有り、これらをしっかり進めていきながら、対応していくという形になると思っております。そのためにも影響というものを早急に出して、その中でどういった形のことのできるのかを考えていきます。

(質問)

- ・ 浅見さんは政策アドバイザーとして2人目ということですが、1人目は石井さんでよろしかったですか。

(市長)

- ・ 1人目は平成28年4月に任命した、石井至（いしい・いたる）さんです。

(質問)

- ・ 浅見さんに、具体的にどういったアドバイスをいただきたいとありますか。

(市長)

- ・ 多岐にわたってくるのですが、中央にはいろいろな情報が入ってきます。例えば、まち・ひと・しごと創生総合戦略で、全国ではどういった取り組みを行っているのか。もちろん、一般的にはホームページでもわかるかもしれませんが、表に出ているものだけでは、わからないことがあります。浅見さんが釧路の実態を踏まえている中で、いろいろなまちの取り組みと、このまちをマッチングさせてお話しただけ。この情報だけでも、極めて大きいものがあると思っております。また、こちらに来ていただき、行政や民間にいろいろとアドバイスやお話しをいただける機会も極めて有効だと思っております。この地域の中で情報をとるアンテナを高くするために、浅見さんの存在は大きいと思っております。

(質問)

- ・ 政策アドバイザーは、報酬は出るのですか。

(市長)

- ・ 無報酬です。こちらに来ていただく旅費は実費で支給する仕組みです。

(質問)

- ・ 2人目というのは、2人になったということなのか、それとも前の人から変わって2人目ということなのか。

(市長)

- ・ 2名になったということです。

(質問)

- 任期は決まっていないのですか。

(市長)

- 1年の任期になっており、その後は石井さんも延長しています。

(質問)

- 1人目の石井さんについて、具体的な事例がありますか。

(市長)

- 石井至さんは国の観光ビジョン構想会議委員や観光立国推進有識者会議委員ということで、各地のさまざまな取り組みや国の動きなどの情報等をいただきながら、市では観光施策を進めております。他にも、市の観光フォーラムや市議会の勉強会にも出ていただいています。